

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成30年7月28日(土)15:00～15:05 於) Jヴィレッジスタジアム)

1. 発言要旨

ここJヴィレッジが再オープンして、今日からキックオフが始まりました。

一番印象に残ったのは、今、試合をやっていますが、午後2時46分の7年4か月、時計が動かなかったんですけど、その時計が再び動いたということで、本当に感動をしております。

このJヴィレッジは、福島県の復興のシンボルといってもいいぐらいの大きな施設でありまして、東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故前より機能強化をされた施設でございます。この施設を活用して、多くの人々に来ていただき、そして被災者自身には希望と元気を頂き、これからの復興に全力を尽くしていきたい、このように考えております。

今日は多くの関係者の方々に来て頂きましたが、特に高円宮妃殿下から励ましのお言葉を賜り、我々被災地の者にとっては、本当に誇りに思いますし、元気を頂いたと考えております。

これからもこの新生Jヴィレッジを拠点に、私たちは復興に全力を尽くしていきたい、このように考えておるところです。

2. 質疑応答

(問) 先ほどJヴィレッジが復興のシンボルとなることを期待されるところおっしゃいましたが、双葉地方の現状、大臣がよく御存じでいらっしゃるわけで、具体的にこういう部分で復興を牽引(けんいん)できるという、もしイメージがあるとしたら教えていただけますか。

(答) 一つはいろいろな、ナショナルセンターですから、ここでトレーニングを、またキャンプ、いわゆるトップアスリートのキャンプだけでなく、小学生も全国の大会も開くことができますので、多くの方々が、ここJヴィレッジに来てくれるわけです。

それで風評被害もございますけれども、福島県に来てみれば、そして福島県の食材を食べてもらえれば、そんなことはないんだということも多くの方々に知ってもらうことができると思います。そういう意味の福島県の切り札、そしてシンボルというふうになり得る施設であると考えています。

(問) 新しく新宿泊棟もできまして、コンベンションの機能も充実したかと思うんですけれども、政府として何か活用していきたいとか、会議等で活用していきたいとか、そういうような考えという

のはいかがでしょうか。

(問) 実は明後日ですね、森会長始めとして、オリンピック組織委員会の理事会がＪヴィレッジで行われます。特に森会長は復興五輪ということを重視している方でございます。そういう意味でもＪヴィレッジで理事会を開いて、そして福島県の食材を委員の方々に食べて頂くということは、風評払拭にもつながりますし、復興五輪というところでは、ここ被災地で開くということを、全国、また全世界にアピールできるいい機会なのかなというふうに思います。

そういう活用をどんどんこれからもしていきたい、このように考えています。

(以 上)